

## 1. 調査目的等

小学校1年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

## 2. 学校ごとの指標

- ・学校の標準偏差値を、嘉麻市の平均目標51.4以上にする。
- ・国語・算数市販テストにおいて、低学年90点、中学年85点、高学年80点以上にする。
- ・学年家庭学習目標時間の達成者数を、各学年の80%以上にする。

## 3. 指標にむけての取組

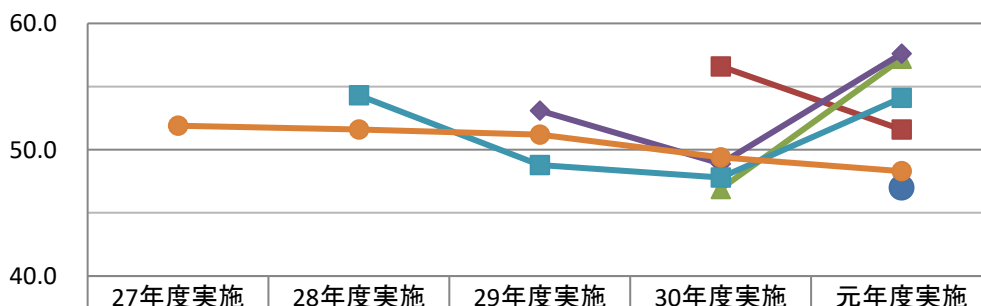
- ・主体的な学習を目指す授業改善を行う。(課題追求・学びの振り返り)
- ・単元テスト後の補充学習では、既習内容を確実に学ばせるための複数体制での指導を行う。
- ・統一した家庭学習の内容(宿題+自学+明日の準備)を決め、家庭学習の徹底を行う。

## 4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
本校(A)	54.9	55.0	53.8	50.4	53.1
嘉麻市(B)	50.8	50.7	51.5	51.4	51.1
(A) - (B)	4.1	4.3	2.3	-1.0	2.0
標準偏差値との差 (A) - (50)	4.9	5.0	3.8	0.4	3.1

## 各学年の推移



## 5. 各学校における分析

- ・「問いや振り返りのある」授業づくりをしたことで、3つの学年で偏差値の大きな伸びがみられた。
- ・個人差が大きい学年において、算数科の習熟度別の分割授業や個に応じた家庭学習の工夫を行ったことが効果的であった。
- ・家庭学習の頑張り習慣を設けるなどしたことで、家庭学習の目標時間を達成することができるようになった児童が84%に増加した。
- ・低学年において、学習の理解の程度や到達度に配慮して、基礎学力を定着・向上させるための補充学習の充実を図る必要がある。

## 6. 各学校における今後の取組

- ・全職員で、本校の学力の推移や課題について共通理解を図り、全学年での取組の徹底を図る。
- ・個人差が大きい学年においては、習熟度別の授業や、個に応じた家庭学習の工夫の継続をし、学力の積み上げを行う必要がある。
- ・統一した家庭学習の内容(宿題+自学+明日の準備)を決め、家庭学習の徹底を行う。
- ・上学年は、土曜未来塾と連携し、補充学習を充実させる。下学年は、放課後学習を活用し、基礎・基本の定着を図る。
- ・家庭学習の頑張り習慣の取組を継続する。
- ・週一回のチャレンジタイムを設定し、補充・活用問題に触れさせるため、複数体制での指導を行う。

## 7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◎今後の取組を具体化し推進することができるように、特に、次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。
- ◆嘉麻市学力向上推進委員会に基づく学力向上検証改善委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。
  - ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した思考を伴う「書く(かく)活動」や目的のある「話し合い活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「学力向上に向けた授業づくりの8つのポイント」や「書く活動ポイント9」を活用することができるように指導助言や支援を行ったりする。
  - ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流する場を設定したりする。